

2020年1月7日

高画質・高音質と快適な装着感を両立
世界初※1HDR対応の眼鏡型VRグラスを開発
「CES2020」に参考出展



パナソニック株式会社（以下、パナソニック）は、4Kを超える高解像度で、世界で初めて※1HDR（ハイダイナミックレンジ）に対応した眼鏡型VR（仮想現実）グラスを開発しました。

第5世代移動通信方式（5G）商用サービスの本格化を控え、VRグラスを用いたスポーツ観戦や旅行の疑似体験など新たなサービス展開が期待されています。高画質・高音質なVRグラスは、没入感の高い疑似体験が可能になる一方、本体が大型化し、ヘッドバンドで頭部に固定する必要があるので、装着感に課題があります。

今回、当社は、世界トップクラスのVRグラス向けデバイスメーカーであるKopin社※2と高性能な表示デバイスを共同開発。さらに、テレビやブルーレイディスクプレーヤーなど映像機器の開発で培ってきた信号処理技術とテクニクスの音響技術、デジタルカメラLUMIXの光学技術を融合させることにより、映像に引きこまれるような臨場感あふれる仮想現実を良好な装着感で快適に体験できる、高画質・高音質かつ小型・軽量・眼鏡型のVRグラスを実現しました。

【本開発品の主な特長】

(1) 4K超／HDR対応の高画質

- ・Kopin社※2とパナソニックが共同開発したマイクロ有機ELパネルを搭載
- ・画素境界が網目のように見える「スクリーンドア効果」の発生を抑え、自然で滑らかな映像を実現

(2) 超低音から高音まで広帯域再生に対応する高音質

- ・磁性流体を用いたテクニクス独自のダイナミック型ドライバーを採用することで振動板の正確なストロークを可能とし、超低歪再生を実現

(3) 小型・軽量でヘッドバンドのいない快適な装着感

・Kopin社※2・3M社※3・パナソニックで新たに共同開発した光学モジュールを採用することで、歪みを抑えた自然な映像を超単焦点で表示。
小型・軽量で眼鏡のような形状を実現

今後、5G商用サービスの本格化に向け、さまざまな用途に応用できるよう開発を進め、新たな顧客価値の創出に取り組んでいきます。

なお、2020年1月7日から10日まで、米ネバダ州ラスベガスにて開催される「CES2020」のパナソニックブースにて、本VRグラスを参考出展します。

※1 HDRに対応した眼鏡型VRグラスとして。2020年1月7日発表時点。パナソニック調べ。

※2 Kopin Corporation。米国マサチューセッツ州に本社を置き、ウェアラブルヘッドセット製品向けにキーデバイスを開発、販売。

※3 3M Company。米国ミネソタ州に本社を置くグローバル企業。化学・電気素材を家庭用品から自動車まで様々な業界に展開。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。